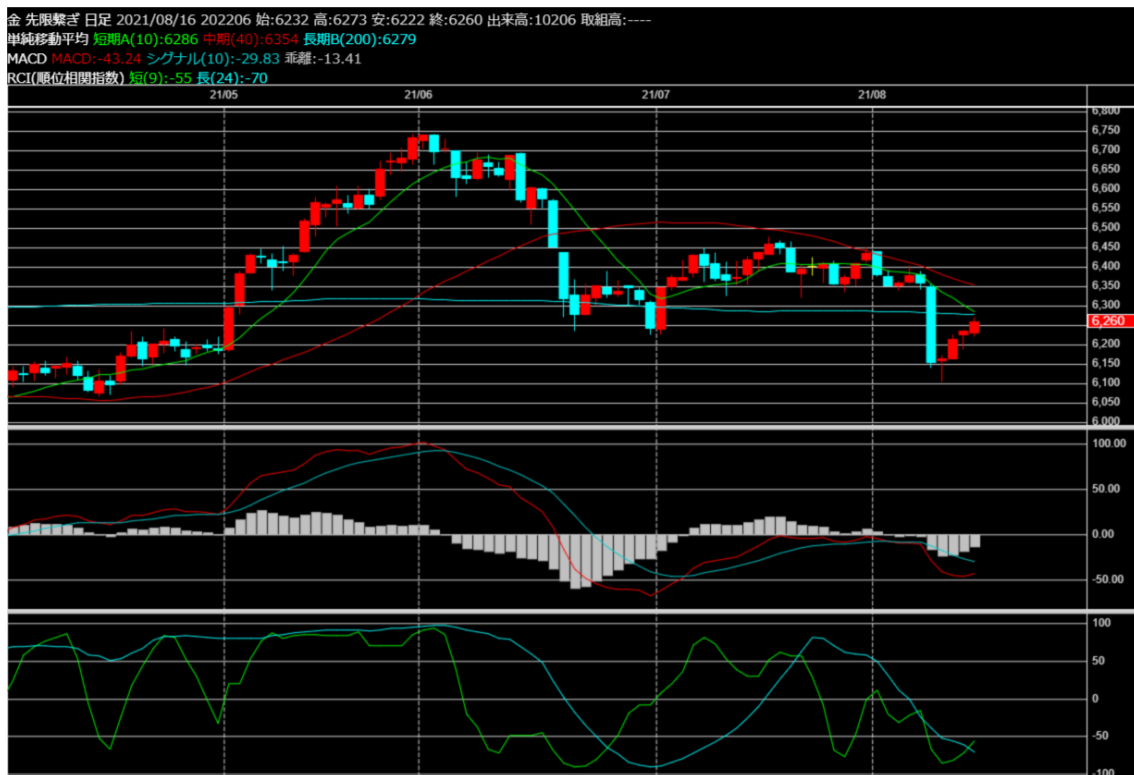


<金標準先物、6300 円以上は戻り売り相場・・・>



(出所：オアシス)

雇用統計の発表を受け、取引参加者が少ない週明けのアジア時間帯を狙ったアルゴリズムの取引で、ドル建て金価格は短時間で 60 ドルを超える下落を見せるなどフラッシュクラッシュの値動きを行っている。そのため休日明けの金標準先物は休日が幸いして、6105 円で下げ止まる動きを見せて、週末にはミシガン大消費者信頼感指数が 2011 年 10 月以来の低水準を示した事で、早期のテーパリングの開始観測が後退し、6273 円まで戻している。特に金標準先物は、雇用統計を受けて早期のテーパリングの要因が織り込まれており、発表される経済指標の発表に一喜一憂する値動きを見せている。そのため今週は、26 日からのカンザスシティ連銀主催の年次シンポジウムの開催を控え、18 日の FOMC 議事録の内容に注目が集まると考え、議事録公開まで戻りを見せると 6300 円以上は戻り売りの推移と予想される。

(2021 年 8 月 15 日記載)

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD が下げ止まりながら、シグナルが下げており、乖離幅の縮小を見せている。また RCI でも短期が上昇を示しながら、長期の下落を超えるなど目先戻りを示すサインが発生している。移動平均線でも日足が 200 日移動平均線との乖離を縮小しながら、下落している 10 日移動平均線に向けて戻りを見せている。そのため 6300 円以上は戻りの抵抗が強く、6300 円以上は逆張りの売り対応が妥当と思える。